

令和5年度 第5回施設長会 会議資料

(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

1 各プロジェクト委員会の進捗状況等について … 資料1

- (1) 災害プロジェクト委員会について
- (2) 人材プロジェクト委員会について

2 施設長会情報交換テーマについて … 資料2

3 施設部会より … 資料3

- (1) 第2回施設部会研修会について
- (2) 施設部会ホームページについて
- (3) 第64回大都市社会福祉施設協議会（広島市大会）について

4 神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会より … 資料4

- (1) かながわ高齢者福祉研究大会 今後のあり方検討会について
- (2) 全社協より介護報酬改定に向けた要請活動における報告について

5 川崎市文化財団より「コンサート鑑賞サポート」について … 資料5

6 その他

- (1) 総合研修センターより研修のお知らせ … 資料6

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会

(1) 第4回災害プロジェクト委員会 / 10月31日(火) 10時～11時

≪協議概要≫

① 令和5年度第2回情報伝達訓練について

川崎市健康福祉局総務部危機管理担当の土谷課長、埴職員より訓練概要を説明。

実施日：2023年11月22日(水) 13時10分～15時

ツール：E-Welfiss、MCA 無線

内 容：川崎市直下地震（最大震度6強）の発災を想定し、連絡体制の確保、被害状況（特に、
①人的被害、②建物被害、③ライフライン被害の3点を重点的に）報告ならびに被害
内容の確認を実施。

※前回訓練と趣向を変えて、今回は11月20日(月)9時から11月22日(水)
11時までの間に、E-Welfissでの連絡体制の確立および被害報告入力を事前に済
ませておく。

② 各班の訓練の取り組み状況について（※別紙も参照）

川崎区：10月11日に情報伝達訓練と物資移送訓練を実施し、参加施設と振り返りをした。

水害でビオラ川崎1階が水没してしまい、オムツの物資支援が必要という設定にした。
E-Welfissについては慣れてきてスムーズに連絡が取れるようになったのだが、連絡
機能でメッセージを入れた際に、参加者はLineのように新しいメッセージが出てく
ると考えていたところ、実際には一度退出して入りなおさないと新しいメッセージが出て
こないということに気づいた。実際の災害時にパソコンの前に張り付いているのは難し
いので、タイムリーな情報がすぐに得られないというのは仕様としてどうなのか、とい
う意見があった。

今回グループの連絡機能を立ち上げたのだが、グループの立ち上げ方が分からない方が
多かったので、みんなが立ち上げられるように持ち回りで行うこととした。

実際の災害時、連絡機能でのスレッドがたくさん立ち上がった時、どこまで対応できる
のかという疑問、ルールが必要だとの意見があった。

物資移送訓練では、参加者が実際の災害を想定して「施設周辺の道路状況はどうか。」

というような連絡があったり、「オムツのサイズは？リハビリパットは必要か？」というような連絡があったりしたが、実際発災した時にそこまでの情報は出てこないのではないか、そのため災害時のパッケージのようなものを用意しておいた方が良いのではないかといった意見も出ていた。物資の移送の際に、今から出発する、今この辺、今着いた、といった情報を常に発信していかないと、二次災害に巻き込まれている可能性も出てくるのではないかとといった話も出ていて、今どのような状況にあるのかという情報を発信することで、物資を受け入れる側だけでなく、物資を移送する側も、職員の安否確認ができるので、情報は逐一発信した方が良いという意見が出ていた。

被災施設は特に人手が足りなくバタバタしていると想定されるので、物資を置くスペースを用意しておいて、物資にリストを貼り付けて、とりあえず置いて帰っていく、受付がなくても済むような仕組み作りも良いかもしれないといった意見も出ていた。

区内8施設中1施設だけ物資移送訓練に参加できなかったが、初めて顔を合わせることでできたので良い機会となった。

同じような訓練を3カ月に1回定期的を実施し、そこで出た意見を取り入れながら少しずつ訓練の内容をバージョンアップしていく。

今回は1月16日13時30分～15時に訓練実施し、16時までに振り返りを完了させる。恒春園が次の想定被災施設になる。

幸 区：年内に会議を開くための日程調整中。E-Welfissを使う時に普段は立ち上げていないので、幸区8施設でメールアドレスの一覧を作成し、共有した。先日、地震があった際に、E-Welfissを立ち上げてメールの一斉配信を行った。3施設から反応があった。そういった形でE-Welfissの習熟度を上げていければと思っている。

中原区：調整中。

高津区：9月26日に物資移送訓練を実施。物資移送訓練に6施設、当日参加できず情報伝達訓練のみの参加が4施設。

課題として、各施設で移送する物資が被ってしまう。E-Welfissの使い方が不十分で、「完了」を押し忘れて、進捗状況が分からず、どこの施設までが把握できているかが確認しづらいので、「完了」を押すことを徹底する必要性を共有した。メッセージ作成中のリアルタイムな更新がないので、「〇〇を持っていく」という内容を作成して送信しようとしたら、既に他施設が「それを持っていく」という内容のメッセージを送っていたりした。Lineのようなポップアップ機能があると、災害時、画面を行ったり来たりせずに確認できる、といった意見があった。

また、物資移送した際に、施設の場所が分からなかったり、場所が分かっても入口が分からなかったりというのがあったので、一度各施設を回って確認できると良い。

今回参加したのは施設長や防災責任者の方々だったが、発災時にはそうした方が対応できないことが多いので、次回は防災責任者以外の方で訓練できたらと考えている。

宮前区：10月19日10時から情報伝達・物資移送訓練を実施した。当日は8施設中1施設不参加だった。移送先が鷲ヶ峰だったのだが、4施設が物資移送訓練に参加した。一回閉じないと新しいメッセージが届かないというのがある。画面が揺れると新しいメッセージが届いたことの合図のようなので、一回閉じてから開くと新しいメッセージを見ることができる。そこの仕様は変えてほしいとの希望があった。

E-Welfiss 自体が「勝手にいじくっていいものなのか」と敷居が高かったが、思ったより簡単だったとの意見があった。

物資移送訓練がなくても、E-Welfiss を活用した情報伝達訓練だけでも月1回くらい実施できるのではないかと、との意見があった。

多摩区：物資移送訓練に参加できなくても、E-Welfiss で「不参加」と発信してもらえたら良かった。実際の発災時に、防災責任者が施設長だと自施設内の調整で手一杯になる可能性が高いので、担当以外も E-Welfiss を使えるようになる必要性があると感じる。年度内にもう1度、物資移送・情報伝達訓練を実施したいと思っている。

麻生区：9月19日に施設連携で水リレー実施。ヴィラージュ虹ヶ丘の奈部谷施設長から「近隣の施設に水を運んだ方が、より密な関係を築けるのではないかと」との意見があったため、近隣施設と連携して水を届けるという形で、顔合わせをしようということになった。6施設ほどは参加できたのだが、麻生区は参加率が課題になっている。

10月17日に物資移送・情報伝達訓練を虹の里で実施した。11施設中7施設が参加。届く時間が16時頃でデイサービスの送迎と被ってしまったため、届けにきた職員が物資を届けてすぐに返ってしまった。顔合わせの時間を持てず、話し合いに参加できたのが4施設に留まってしまったのは反省点。参加率の向上が課題となっている。

訓練の中で大事な情報の共有があれば参加率が上がるかもしれない。

来年度から災害シミュレーションが義務化されるので、それと連動することができないかと、との意見もあった。

今回 SOS を出したのが虹の里だったのだが、マニュアルは読んでいるが、ソフトに慣れていないという感想があった。連絡機能について、立上げの部分では連動しているが、それ以外のところは連動していないということが分かった、との意見もあった。発災時には持ち運びできるタブレットやスマホとの連動が有用だと感じた、との意見もあった。

複数施設が被災するということは想定されることなので、スレッドが増えた場合の対応にも慣れていた方が良いのではないかと、との意見もあった。

次回は2月の第3火曜日に実施予定だが、来年については2月・6月・10月の第3火曜日に実施する予定。

③ 市内施設での施設間連携の強化

10月19日に横浜市社協高齢福祉部会災害プロジェクト委員会の委員長である社会福祉法人竹生会^{ちくぶかい}たきがしら芭蕉苑の前田施設長に近隣他都市との連携を深めるための情報交換会実施に向けた趣旨説明を行い、実施について了解を得た。11月中旬から下旬にかけて実施される横浜市社協の災害プロジェクト委員会の中で諮問してもらい、承認得られれば実施に向けて日程調整等していくことになる。

【検討事項】

1) どういったテーマで情報交換するか？

地域連携した先に何が重要になってくるのか？について話し合い。

物資が必要になった際に、川崎市からも近隣施設に呼びかけて提供することができるとして、それは無償提供かどうか、横浜市はどのように実施しているのかを確認し、その話し合いの内容を持ち帰って、施設長会等で相談し、可能であれば川崎市としても実施する流れにできるのではないか。そこから連携して合同訓練に繋がれたら良いのではないかな。

情報伝達システムの構築について、長年やってきた中での課題や現状について情報提供してもらえれば、川崎市のE-Welfissについて新たな視点から発見できることがあるのではないかなと思う。

二次避難所としての機能だが、一時避難所からの受入れと施設玄関前に来た避難者のどちらを優先するかという課題と防災訓練の参加率の課題について発災時を想定した時の連携強化の観点からすると訓練参加の拘束力をどこまで持たせるかについての意見を聞きたい。費用負担の問題、指揮系統の課題（どういうルートで判断し物事が決まっていくのか）。

2) 実施時期はいつにするか？

来年2月頃に対面形式で、状況によってはオンラインを活用してのハイブリッド形式での開催。

(2) 今後の予定

第5回災害プロジェクト委員会 / 1月15日（月）10時～

各班の訓練について

	年月日	開始時間	場所	内容
川崎班	令和5年10月11日	13:30	ビオラ川崎	多摩麻生合同訓練に倣った情報伝達・物資移送訓練 区内8施設が参加
幸班	令和5年8月31日	10:00	夢見ヶ崎（集合）	区内8施設を巡回し、搬入経路等確認 まずは顔の見える関係づくりの構築を進める 入口が思っていた場所と違っていたり、駐車スペースがなかったりと気づきが多かった
中原班	令和5年11月（調整中）		すみよし（調整中）	
高津班	令和5年9月26日	10:00	高津山桜の森	模擬被災状況をE-Wefssにて情報発信・物資移送訓練 10施設が訓練に参加
宮前班	令和5年10月19日	10:00	鷲ヶ峰	リモート会議で内容を検討した上での情報伝達・物資移送訓練
多摩班	令和5年9月3日	8:30	生田まほろば	情報伝達・物資移送訓練（二次避難所立上げ訓練と併せて実施） 6施設が参加 不参加者であっても連絡だけは入れてもらう、物資を搬入してくれた施設長がしばらく放置されていた等が反省点
麻生班	令和5年9月19日	10:00	区内施設	10時 情報伝達訓練開始、10時30分 施設連携水しレー訓練 リレー形式の方が近隣施設との顔つなぎができる 搬入と搬出で近隣2施設との繋がりをもてる
麻生班	令和5年10月17日	13:30	虹の里	情報伝達・物資移送訓練

2 人材プロジェクト委員会

(1) 第4回人材プロジェクト委員会 / 11月30日(木) 14時～16時15分

《協議概要》

① アンケート研修

テーマ：人事課題解決のためのセッション

講師：バックオフィス総研コンサルティング合同会社 前田 直 氏

② ハローワーク「福祉の仕事」説明会について

1) 11月8日(水)「福祉の仕事」説明会

HW 川崎と福祉パルみやまえ会場で説明会を実施。

伊藤施設長(HW 川崎)、平山施設長(福祉パルみやまえ)が人材P委員として参加。

「施設でのケアの実際」の講話を伊藤施設長が、「福祉の現場からの声」の司会を平山施設長が担当した。

「福祉の現場からの声」には、養護老人ホーム恵楽園と特別養護老人ホーム生田広場の2施設が参加協力してくれた。

HW 川崎は12名の参加、福祉パルみやまえは13名の参加と、これまでの3回と比較して参加者数は少なかったものの、後段の就職相談会(川崎市福祉人材バンク担当)にHW 川崎10名、福祉パルみやまえ12名と多くの方が参加し、熱心に参加企業の話聞いていた。

【ハローワークかわさき会場】



【福祉パルみやまえ会場】



2) 今年度の福祉の仕事説明会

日程	委員（南）	委員（北）
5/19（金）	大師の里 古敷谷施設長（司会） ※ハローワーク川崎	新緑の郷 小林施設長 ※福祉パルなかはら
7/14（金）	生田広場 神田施設長（講話①） ※ハローワーク川崎	新緑の郷 小林施設長（司会） ※福祉パルたかつ
9/15（金）	すみよし 和田施設長 ※ハローワーク川崎	すえなが 平山施設長（講話①・司会） エポックなかはら
11/8（水）	しおん 伊藤施設長（講話①） ※ハローワーク川崎	すえなが 平山施設長（司会） ※福祉パルみやまえ
1/19（金）	等々力 岩壁施設長（司会） ※ハローワーク川崎	多摩川の里 茶園施設長（講話①） ※福祉パルたま
3/8（金）	すみよし 和田施設長（講話①） ※ハローワーク川崎	金井原苑 吉野施設長（司会） ※福祉パルあさお

●次年度の実施方法について検討

⇒各区の福祉パルを活用して実施した方が、それぞれの地域の求職者、施設が来やすいことから今年度と同様の実施方法が望ましい。

③ HW 動画班会議について

イメージを掴むためにもプレ動画を作成し、そこに動画や写真、挿絵、さらに加える必要のあるスライドを切り貼りしながら完成を目指す。

プレ動画作成にあたっては、神田施設長が作成してくれた現在使用している「施設でのケアの実際」の資料をベースに、スライドの順番や加除を検討していく。

参加者の中には「そもそも無資格・未経験な自分たちにできることはあるのか？」と考える人もいるので、そのハードルを下げる内容にすることを目標に作成していく。

1) プレ動画作成のための資料確認

- ・初めに、いわゆる老人ホームと呼ばれるものの種類を提示し、特養に特化しすぎないように注意しつつ、公益性等、社会福祉法人と民間の性格の違いをみせていく。
- ・デイサービスやショートステイ等、耳なじみのある文言を使って、事業形態紹介ページを作成。

- ・多職種の関りを示すスライドを、可能であればそれぞれの職種の職員の顔写真つきで紹介できると良い。介護補助は必ず含めるとして、清掃員やドライバーも含められる。
- ・状況に応じた様々な働き方ができる、ということを PR するスライドを作成。
- ・介護補助とは具体的にどのような仕事をするのかを説明するスライドを作成。
- ・デイサービスは働く際のハードルが低いように思われるので、特養とデイサービスの2つのパターンの1日のタイムスケジュールを作成する。
- ・仕事をする上での心構えとしてポイントとなる「気がかりと気遣い」のスライドは含める。
- ・『やりがい』という部分で「家族と一緒に本人を支える」ことの大切さを示すスライドを作成。やりがいを感じたエピソードを職員にコメントしてもらい、その動画を挿入できたら、よりイメージが付きやすい。
- ・差込写真や動画は人材プロジェクトの中で募る。

次回HW動画班会議：令和6年1月11日（木）15時～

④ 地元で活躍する企業との交流会について

日 時：令和5年11月20日（月）午後2時から午後4時30分

場 所：てくのかわさき1階研修室

参加者：15名（20代～40代後半）

人材P：岩壁施設長（等々力）、小林施設長（新緑の郷）

◆かわさき若者サポートステーション／コネクションズかわさきの茶山所長より趣旨説明

◆4企業（メンテナンス・IT・製造・福祉分野）から企業説明（各15分ずつ）

◆1グループ3～4人の4グループに分かれて交流会（各15分ずつ）

【出された主な意見】

○福祉・介護のイメージは？

- ・ベッドへの移動介助や入浴介助など、力仕事メインのイメージ
- ・オムツ交換など、汚くてきついイメージ
- ・対人の仕事なので人が好きじゃないとできない仕事
- ・利用者が多いので一人一人の特性を把握することが難しそう
- ・体力がないとできないイメージ、腰を痛めそう
- ・人の最期に立ち会う仕事
- ・夜勤が大変そう
- ・よく人手不足だと耳にするので、一人一人の負担が大きそう

○福祉の仕事は就職の選択肢に入っていた？

→参加者15人中14人が選択肢に入れていなかったと回答

【出された主な質問】

・夜勤はどんな働き方？

→夜勤の勤務時間は施設ごとに異なっており、ショート夜勤を導入している施設もある。

各施設に問い合わせて自分の仕事のイメージにあった勤務時間帯のところで働くようにしてもらおうと良い。夜間徘徊してしまう認知症の利用者もいるが、すべてを1人の職員で負わないといけないということはないので、先輩職員と協力しながら対応していく。個人的には朝の食事前の起床と準備が大変だと感じる。

・どうしても性格的に合わない利用者がいた場合、その人とどう関われば良いのか？どのような心持ちで接すれば良いのか？

→人と人のことなので、どうしても合う合わないは生じる。合わない利用者のフロアで働かせることのデメリットが大きい場合は、その職員に別のフロアに異動してもらうなどの対応をとっている施設も多い。

・介護職は女性が多いイメージなのだが、男性も割と働いているのか？

→男性の介護職員も多く、自施設で言えば男女比は半々。外国人雇用進んでいる。

・給料は安いのか？

→国が賃金の底上げに力を入れているので、世間で思われているイメージよりも高いと思われる。また、家賃補助などもある。一般企業のように好景気時に給料が大幅に増えることはないが、真ん中くらいで安定した給料を得られる。

・今後ますます高齢者が増えていき、それに伴い人手不足の問題がより深刻化すると思うが、介護の世界の今後の展望は？機械との共存などは考えられているのか？

→ICTの部分は福祉業界の弱いところだったが、コロナ禍もあってICT化が進んだように感じる。これまでは紙媒体だった記録がタブレット端末を使用するようになる等。介護ロボットや様々な福祉機器も進歩してきている。

・腰が悪い自分にはできそうにない仕事だと思うのだが…。

→自施設の介護職の最高齢者は70歳の方。介護技術を使用したり、スライドボードを活用したり、ベッドへの移乗は場合によっては2人で行う等、体を痛めないような介護の仕方がある。一瞬力を入れる必要があることはもちろんあるが、力を入れ続けられないといけないというようなことはない。外国人の職員は150cmくらいの小柄で華奢な女性だが、問題なく介護できている。

岩壁施設長から「一度ぜひ施設に見学に来てほしい。介護職の人がどんな働き方をしているのか直接見てみてほしい。どんな仕事にも向き不向きはあるので、まずは飛び込んでやってみて、自分にはできなさそうだと感じたら辞めるので構わない。」との声かけから、後日2名の参加者の方から施設見学の希望が入った。（現在調整中）



（２）今後の予定

第5回人材プロジェクト委員会 / 1月17日（水）14時～

情報交換について

1 情報交換について

施設長会の際に、会員施設同士で情報交換、意見交換が出来る時間が限られており、平成 30 年度より施設長会と合わせて実施している。

老人福祉施設「協議会」という名のとおり、施設同士等で情報交換、意見交換が出来るテーマを設け、設定テーマに基づく 30 分程度（目安）の情報交換を実施します。

(1) 会員施設から情報交換のテーマを募集

〔情報交換のテーマ例：看取りの実施方法、加算の取得状況、職員の雇用形態 等〕

(2) 正副会長等会議において、会員施設から集約した情報交換テーマを確認し、施設長会での情報交換テーマを検討します。

(3) 施設長会の開催通知に、情報交換の設定テーマを記載し各施設へ連絡。 各施設には必要に応じて資料等をご用意いただきます。

2 令和 5 年度施設長会の情報交換テーマ

○第 1 回施設長会の情報交換会のテーマ

テーマ：「災害について」

内 容：①各区の班長、副長について

②災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称 E-Welfiss）を活用した情報伝達訓練及び物資移送訓練等について（案）

○第 2 回施設長会の情報交換会のテーマ

テーマ：「新型コロナウイルス 5 類移行に伴う対応の変化について」

内 容：①面会方法について

②感染対策の変化等について（換気の頻度が減った、変わらない等）

○令和 5 年度第 3 回施設長会の情報交換テーマ

テーマ：「派遣職員と人材紹介事業所について」

内 容：① 最低賃金の上昇に伴う派遣職員の時給・派遣費用の変化・交渉について
② 派遣職員・人材紹介事業所に関連した課題 等

○令和 5 年度第 4 回施設長会の情報交換テーマ

テーマ：「派遣職員と人材紹介事業所について～part 2～」

内 容：① 最低賃金の上昇に伴う派遣職員の時給・派遣費用の変化・交渉について
② 派遣職員・人材紹介事業所に関連した課題、成功事例 等

3 令和5年度第5回施設長会の情報交換テーマ

テーマ：「容態急変等による救急対応や看取りの現状について」

内 容：① 救急搬送後に逝去された場合の死亡診断書の取り扱い、嘱託医の死亡診断書作成、消防署の対応や現場検証等について

② 救急隊対応時の情報提供書の活用について（次頁参照） 等

※出された意見を簡単にまとめてメモに残してください。

【令和4年度テーマ一覧】

6月15日	施設におけるコロナ対応について～第6波終了の今、第7波に備えて～
8月25日	新型コロナウイルス第7波における各施設の課題、問題点、各施設との連携方法
10月19日	I C T機器の導入について
12月21日	【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について
2月15日	施設運営における補助金の有効活用について～大規模修繕・コロナ対策など～

救急隊への入所者情報提供書

→ 施設ご担当の方へお願い

- (1) 太枠内は、貴施設に新規の方が入所されるごとに**予め**記入・作成してください。
- (2) 備考欄などをご利用頂き、記載事項の追加・変更等、情報を更新してください。

ふりがな			
お 名 前			
生年月日	M ・ T ・ S	年	月 日 (年齢) 歳
ご 住 所	(電話番号) — —		
どのようなご病気を お持ちですか？	(例) 「脳梗塞」、「認知症 (5年前から)」、「3年前から肺気腫で在宅酸素2ℓを行っています。」		
常用している薬は ありますか？			
アレルギーはありますか	無 ・ 有 ()		
医療機関情報	かかりつけ医療機関 名称	貴施設提携医療機関 名称	
日常生活動作	全介助 ・ 一部介助 (歩行 可・不可)(食事 ・ 入浴 ・ 排泄) ・ 良好		
ご家族の所在地	川崎・横浜・東京 (区) ・ 道府県、市町村 ()		
備考欄 (記載事項の変更 等)			

・ 今回 (救急要請時) の状況

いつからどのような 症状があつて救急車 を呼びましたか？	(例) 7時の巡回の際に自室のベッド上で呼吸苦を訴えているのを発見しました。 SpO ₂ が75%でしたので救急車を呼びました。 <div style="text-align: right;">[一番最後の食事摂取は? 時頃]</div>
最終バイタル	意思の疎通 { 普段どおり ・ 普段と違う () ・ 意識なし } 脈拍数..... 呼吸数..... 血圧..... / SpO ₂ % 体温..... °C
ご家族への連絡は？	続柄: (連絡済・これから連絡・連絡取れず)
その他、特記事項は ありますか？	(例) 担当医師から病状悪化時には酸素5リットルを投与するように指示を受けています。家族は搬送先病院へ直接向かうとのことです。

ご協力ありがとうございます。 個人情報の取扱いには十分注意いたします。

「地域でのつながり」
改めて考えて見ませんか？



☆同日開催☆

かわさき基準(KIS)
認証製品
展示会&セミナー

第2回施設部会研修会

地域での つながり

日時 **12.22 (金)**

会場 川崎市産業振興会館

13:30 ~ 15:30

参加費
無料

【プログラム】

- ① 講話
- ② グループワーク
- ③ 質疑応答

【お申し込み】

チラシ裏面により **12/21(木)**までに申込み

今回の研修会では「地域でのつながり」を
テーマに、『社会的処方ー孤立という病を地域の
つながりで治す方法』の著者で、川崎市立井田病院緩和ケア
内科医・一般社団法人プラスケアの代表理事である西智弘様を
講師として、地域共生社会や地域包括ケアシステムの実現に
つながる「地域でのつながり」について再考する契機と
なることを目的として開催します。



【主催】 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会



川崎市社協 福祉部 施設事業推進課 へて
FAX: 044-739-8737

【12月21日(木)までにGoogleフォームまたはFAX、メールによりお申込みください】



令和5年度第2回施設部会研修会



<https://forms.gle/o2sE4TST69MMDkKK9>

施設名 団体名	
所在区	川崎・幸・中原・高津・宮前・多摩・麻生・その他()
所属 種別	保育・老人・障害・児童・救護・その他()
メール アドレス	
参加者 (職名)	※複数で参加する場合には、複数の氏名等をご記入ください
質問 事項	※講師の方へ事前に質問事項等がございましたら、ご記入ください

※本研修会是对面開催のみになっております。

※定員を超えた場合のみ、参加者あてに事前連絡をさせていただきます。



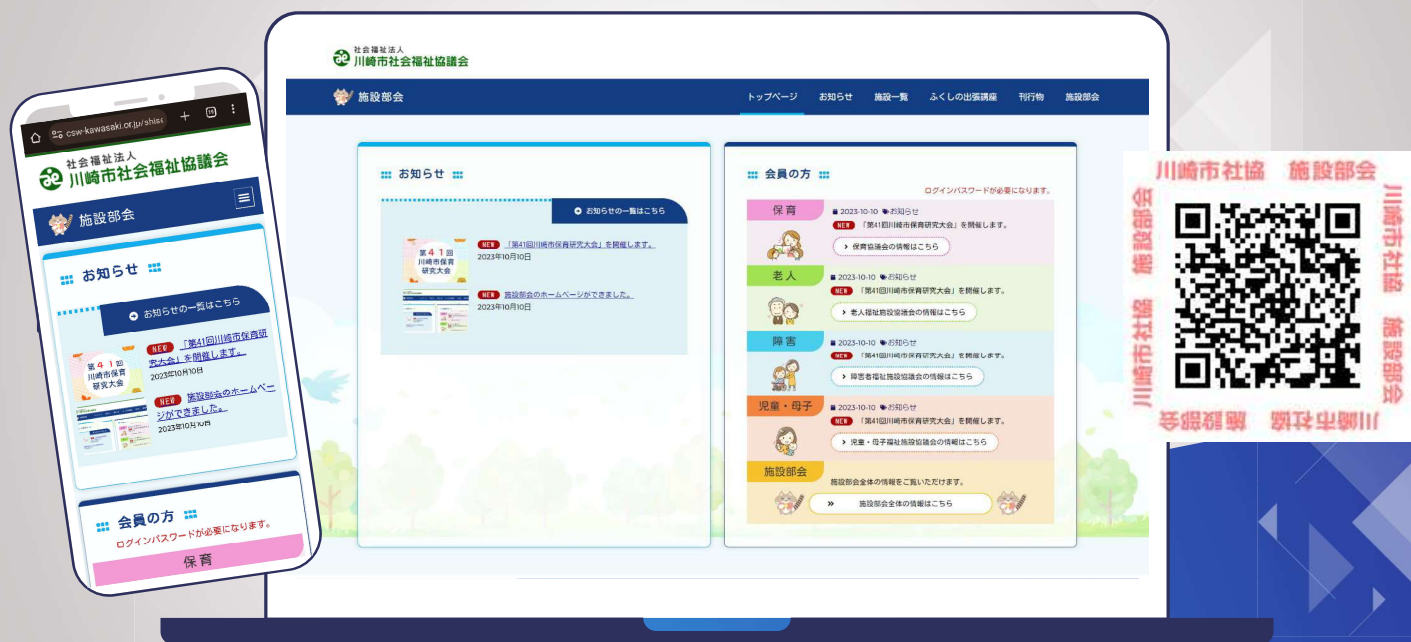
【お申込み・お問合せ先】

川崎市社協 福祉部 施設事業推進課

電話: 044-739-8717 FAX: 044-739-8737

メール: shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

川崎市社協「施設部会」 ホームページはじめました！



URL <https://csw-kawasaki.or.jp/shisetsu/>
貴施設パスワード ○○○○○○○○○○○○

会員施設・そしてその施設で 働いている職員のみなさん！



「施設部会」のホームページはご存知でしょうか？

会員施設限定の研修動画や各種情報等にアクセスできます！

①

研修動画

施設部会や各協議会の研修動画を視聴できます！

②

資料ダウンロード

メールで送付していた開催通知や資料をダウンロードできます！

③

各種情報

国や川崎市からの情報、寄贈物品等のお知らせも確認できます！



記録 第64回大都市社会福祉施設協議会

- 1 日 時 令和5年11月28日（火）午後1時～午後8時まで
- 2 場 所 広島市総合福祉センター 5階 ホール他
- 3 参加者 【施設部会】奥村会長（保育）、清水会長（老人）、
柳澤副会長（障害）、白戸会長（児童・母子）
【法人経営者部会】粕賀部会長
【事務局】中島部長、平林室長、金子

4 内 容

大会テーマ「社会福祉施設に期待される役割～新たな福祉ニーズへの対応～」

（1）開会式

（2）基調講演

「広島市における地域共生社会の実現に向けた取組について」

講師：広島市長 松井 一實 氏

（3）分科会

- ①「社会福祉法人が新たな福祉課題にどのように対応していくか
～8050 問題について考える～」
- ②「地域における社会福祉施設の存在意義とは～地域とともに歩む～」
- ③「人材育成の仕組みづくり～人材確保と定着～」
- ④「実効性のある災害対応の取組について～被災体験の共有から考える～」

（4）全体会

（5）閉会式

（6）交流会

※詳細については、開催要綱参照



第64回大都市社会福祉施設協議会（広島市大会）開催要綱

1 開催趣旨

令和2年から世界的に猛威をふるった新型コロナウイルスは今年5月から5類感染症の扱いとなりましたが、影響の大きかった3年間で生活困窮世帯の増加、3密回避による人とのつながりの希薄化などが顕著になりました。

また、複雑かつ複合的な生活課題を抱え、制度の狭間で支援を受けられない方々が顕在化し、平時から分野を超えた連携や協働が求められるとともに、課題に応じて地域一体となって包括的な支援に取り組むことが重要になってきています。災害も頻発し社会福祉施設の役割が増す中で、福祉・介護の職場では担い手不足が喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、大都市の社会福祉施設関係者、行政、社会福祉協議会が一堂に会し、様々な福祉課題に対する大都市の社会福祉施設としてのあり方について研究及び協議を重ね、共通理解を深めるとともに、社会福祉の向上に資することを目的に開催します。

2 大会テーマ 社会福祉施設に期待される役割～新たな福祉ニーズへの対応～

3 主 催 大都市社会福祉施設協議会

4 主 管 第64回大都市社会福祉施設協議会実行委員会 社会福祉法人広島市社会福祉協議会

5 後 援 広島市

6 期 日 令和5年11月28日（火）

7 日 程

12:30	13:00	13:30	14:00	14:15		16:30	16:45	17:15	18:00	20:00
受付	開会式	(1) 基調 講演	休憩	(2) 分科会	休憩	(3) 全体会 閉会式	会場 移動	交流会		

8 会 場

- ・ 協議会会場
広島市総合福祉センター 5階 ホール他
(〒732-0822 広島市南区松原町5番1号 BIGFRONTひろしま)
- ・ 交流会会場
ホテルグランヴィア広島 4階 悠久
(〒732-0822 広島市南区松原町1番5号)

9 参加都市 川崎市、北九州市、千葉市、神戸市、大阪市、京都市、名古屋市、横浜市、福岡市 札幌市、広島市

10 オブザーバー さいたま市、静岡市、堺市、新潟市、浜松市、相模原市、仙台市、岡山市、熊本市 参加都市

11 参加対象 社会福祉施設代表者、社会福祉協議会役職員、関係行政機関職員

12 参加予定人数 130名

13 内 容

(1) 基調 講演	<p><u>テーマ：「世界に誇れるまちづくりを目指して～広島市の取組を通じて～（仮）」</u></p> <p>大都市が抱えている地域コミュニティの課題について、社会福祉施設を含めた様々な団体が連携し、活動の輪を広げていくことが大切になります。広島市の取組を通して、社会福祉施設としてのまちづくりへの参画について考えます。</p> <p>講師：広島市長 松井 一實 氏</p>
(2) 分科会	<p><u>①「社会福祉法人が新たな福祉課題にどのように対応していくか～8050 問題について考える～」</u></p> <p>近年、引きこもり、社会からの孤立、ヤングケアラー、貧困問題など、複雑かつ複合的な生活課題を抱え制度の狭間で支援を得られない方々が顕在化しており、特に大都市で顕著となっています。他機関との協働事例を通じて、地域における社会福祉施設としての取組について考えます。</p> <p>講師：福山平成大学 福祉健康学部福祉学科 教授 藤島 法仁 氏</p> <p>事例発表者：社会福祉法人福祉広医会</p> <p><u>②「地域における社会福祉施設の存在意義とは～地域とともに歩む～」</u></p> <p>社会福祉法人は、社会福祉法に規定される、いわゆる地域公益事業に限定しない地域貢献活動を通じて、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる地域づくりに、積極的に貢献していくことが期待されています。他機関等と連携し、地域づくりに取組む施設の事例を学ぶとともに、地域における施設のあり方について考えます。</p> <p>講師：県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科 講師 手島 洋 氏</p> <p>事例発表：種別を超えた施設×地域の連携（仮）</p> <p>事例発表者：社会福祉法人交響 理事長 安部 倫久 氏</p> <p><u>③「人材育成の仕組みづくり～人材確保と定着～」</u></p> <p>現在、社会福祉学部の充足率は全学部と比較すると低い状況にあり、介護福祉士養成校に至っては、5割充足が難しくなっており、若年層の福祉離れの加速化が止められない状況です。また、介護を必要とする高齢者の人口が増加する一方で福祉・介護の人材確保は喫緊の課題でもあります。このような中で、働きやすい職場づくりの見える化に取組む事例を通して魅力ある福祉・介護の職場について考えます。</p> <p>説明：「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま」認証制度について</p> <p>説明者：広島県社会福祉人材育成センター</p> <p>事例発表：働きやすい職場づくり（仮）</p> <p>事例発表者：社会福祉法人慈光会</p> <p><u>④「実効性のある災害対応の取組について～被災体験の共有から考える～」</u></p> <p>近年多発している自然災害において、誰もが我が事と捉える機会が増えるとともに被災された社会福祉施設では地域や社会福祉施設間のつながりの大切さが再認識されています。地域とのつながりや顔の見える関係づくりの大切さ、種別を超えた施設間の連携について事例を通じて、いつどこで起こるかわからない災害に社会福祉施設としてどう備えるか考えます。</p> <p>講師：日野ボランティア・ネットワーク 代表 山下 弘彦 氏</p> <p>事例発表：平成30年度豪雨災害における地域とのつながりと施設間連携の必要性について（仮）</p> <p>事例発表者：社会福祉法人微妙福祉会 理事長 松尾 竜 氏</p>
(3) 全体会	<p>分科会の報告を通して、社会福祉施設の期待される役割について、参加者で共有します。</p>

会議報告書

会議名	かながわ高齢者福祉研究大会 第1回今後のあり方検討会	報告者 加藤
開催日時	令和5年10月19日(木) 午前10時から12時まで	
会場	神奈川県社会福祉センター4階 403	

概 要

《出席者》加藤委員長、三澤委員、森委員、川瀬委員、牧野委員、前田委員、晝間委員、
白井委員、平山委員、藤田委員、阿部委員、坂本委員、大久保委員
西山会長（オブザーバー）
横浜市社協、川崎市社協、相模原市社協、県社協事務局
（欠席：神奈川県高齢者福祉施設協議会）

進行：加藤委員長

冒頭、西山会長、加藤委員長より挨拶をいただき、議題に入った。

<西山会長>

かながわ高齢大会は21回の歴史を重ねてきた。今後に向けてどうしていくか、という話は5、6年前から少しずつ出ている。加藤委員長に取りまとめをお願いし、来年度以降のあり方の検討かつ継続していくためにはどうしたらよいか検討いただきたい。

<加藤委員長>

かながわ高齢大会の正副実行委員長、実行委員の経験者に集まっていっている。かながわ高齢大会は、オール神奈川での職員の資質向上が目的である。発表数も計2000題以上にのぼる。

これまでの成果を踏まえて、発展的にどう継続していくかを考えたい。

本日は、ブロックや経験者の考え方等をざっくばらんに聞かせてもらい、振り返りをしっかりしたうえで、次回案の提示に繋げていきたい。3月総会での事業計画において（案）を示せるとよい。

■議題

1 本検討会について

2 かながわ高齢者福祉研究大会の開催経過について

事務局より、資料に基づいて本検討会設置の経緯およびかながわ高齢大会の開催経過について説明を行った。大会の趣旨・目的を再確認したうえで、今後のあり方を検討していきたい。

<挙げられた質問・意見>

・どれくらいの時期まで健全運営ができていたのだろうか。

⇒年度によって、収支バランスが変わり、会場賃借料についても、プログラムに左右される。

もともと、パシフィコ横浜の会場費が減免されていた。減免がなくなってから、会場費があがり、参加費で調整をしてきた。繰越金も含めてやりくりしていた。

・大会の取組が始まった経過について

（西山会長）当時の時田会長が全国老施協の副会長であった。全国大会をやっていく中で、平成 13 年に若手の次世代を担う経営者が集う会として 21 世紀委員会が立ち上がり、第 1 回目が新横浜プリンスホテルで開催された。その実践発表を見る中で、県内でも必要であると提案された。それを受けて高齢大会の第 1 回の開催につながった。おそらくそれまでは、全国的にも取り組みが少なく、県単位での取り組みもしていなかったと思う。県内のブロック単位で取り組んでいたような状況である。

（三澤委員）当時、時田氏から「島根で研究大会をやっているのだから神奈川でもやろう」という話をいただき、第 1 回実行委員長として携わった。まわりではやっていなかった頃に始まっている。介護技術発表を始める時も、島根まで視察に行った。視察したオールジャパンケアコンテスト（今年度第 13 回）は、今も続いており、テレビでも取り上げられている。

・近県の研究大会の開催状況は、東京第 18 回、埼玉第 15 回、静岡第 12 回である。

3 検討事項及び今後の進め方について

資料に基づき、事務局より今後の進め方及び本検討会での主な検討要素（案）について説明を行ったのち、委員より意見をいただいた。

第 2 回では、本日挙げられた意見を整理したうえで、素案となるものを提示しながら引き続き検討を行う。第 2 回終了後、各ブロックにて協議いただく。

○本日挙げられた主な意見・検討の視点は次のとおり。

- ・オール神奈川で取り組むこと、継続していくことの再確認。県単位で開催する意義の検討。
- ・開催目的の再確認。職員のための大会であること、大会を引っ張っていくテーマの設定。
- ・参加の意志を持てるような大会運営の必要性。
- ・研究発表、介護技術発表の質の向上、そのための新たな手法の検討。
- ・多様な開催形態の検討。
- ・施設関係者以外の参加につながるプログラムや仕掛けの検討。
- ・財源確保にかかる手法の検討。

○西山会長より、検討の視点について

- ・第一には、職員の大会であるということを踏まえ、職員がいかに生き生きとして活躍できるか、そのためにどう取り組めるかを考えていく。
- ・集合形式の臨場感とふれあいが醍醐味だと思う。大会に参加することによって、発表者と参加者の相互の学びの場になるような職員研修に位置付けてもらうような見直しが必要ではないか。行ってよかったと思える機会として、参加者が交流できる場をつくることを考えるのもよいかもしれない。
- ・情報発信の方法として、TVK などローカルでも発信してもらえるような協賛をお願いするなど、手法を考えられるとよい。発表に県知事賞など、賞賛や顕彰の要素を持たせるのもよいだろう。ブロック⇒県⇒関東ブロック⇒全国というように繋がっていくような位置づけにすることも一つではないか。

<各委員より挙げられた意見>

加藤委員長）検討要素に加え、ブロックとの兼ね合いも考慮して検討していきたい。

三澤委員） 県全域の発表の場ということではなくしてはいけない。リアルで集めることをしなくても、ハイブリッド、オンライン化したものも検討できれば。介護技術発表については、発表に取り組みたいという職員が関わってきている。介護技術発表の灯は消したくない。

牧野委員） パシフィコ横浜で開催してきたが、やはり会場費が高い。そのために声をかけるという体制は問題だと感じている。研究発表もマンネリ化してきており、職員に参加を呼び掛けても、「もう内容がわかるよ」という声が返ってくる。会場を持ち回りにしたり、質や内容の検討が必要。業界内に限らず、一般の人にもプラスのイメージを持ってもらえるような機会にできるとよい。入所相談のブースをもうけて一般の方が相談できるようにしたり、職員向けの講演を設けたり、介護技術発表については、全国のやり方を参考にしてはどうか。

白井委員） 開催当初に比べて、県社協会員施設は増えていると思うのだが、参加者は減っている。特定の施設が複数の参加申込をしている。参加施設数を増やしていかないと先細ってしまうのではないか。「広く一般へ知られるよう」に一生懸命やっているのに、プログラムを含め内向きの状況なのはもったいない。分散して、各地域でフェスティバル要素を入れて一般の方が見られるような設定が必要ではないか。

阿部委員） 相模原は、コロナ前から物理的な距離もあって参加が遠のいていた。オンライン開催の際、誰でも見られるチャンスかと思ったがなかなか参加には繋がらなかった。一方で、参加した職員には、同胞の頑張りが刺激になったようだ。いまのやり方では、一般の方の参加は難しい。地元で開催しても、同じ難しさを感じている。コロナ禍で、家族との連携も弱くなっており、施設の中を知ってもらう機会になるとよい。

森委員） 介護の現場で働いている人のことをわかってももらえる機会がなく、大会には「職員を元気にする」という目的もあったと思う。回数を重ねて内容が充実し、アカデミックな方向にという声はあがっていたが、舵を切れていない。人手不足で職員の参加が難しい一方で、職員のモチベーションのために出てもらいたいと思う。参加方法について、隔年開催にしたり、参加費と会費を一緒に集めたり、やり方を変えて考えていかなければならない。

前田委員） 開催当初、職員は「発表のために何をするか」という視点であったが、継続してきた今、「これ大会で発表できるよね」と職員の捉え方が変わってきた。介護技術発表においては、研究発表にはできない技術的なこと、自分たちが身近にやっていることを発表する機会としてとても重要である。動画で介護技術発表を行うと、研究発表との違いがなくなってしまう、やはり参集形式で実演するのがよいと感じている。会場費や職員の参加しやすさといったところをクリアできれば、さすが神奈川といわれるような会の運営に向けて、改めて方向性を見直して、次の世代にバトンタッチしていかないといけない。

平山委員） 第1、2回目は川崎ブロックとしては、まだ参加の意識が薄かった。それからだんだんと浸透し、取り組みを工夫してきた。学生にとっても、こうした大会の場があることで、実習だけではわからないことがたくさんある。4年ぶりに参集形式で開催したが、集まることの感動があった。雰囲気も含め、発表者、参加者も生き生きとしていて、参加してよかったという感覚を持って帰ってくれたと思う。30年、50年と、福祉の発展のためにも継続が必要である。毎年開催はスピード感も早い。2年に1回でも良いかもしれない。経費の考え方は、削減も含めて考えていかなければならない。

坂本委員） オンライン大会を経験したが、現場での実演があったほうが良いと感じた。オンラインの開催も費用がかかる。SNSも、使い方をよく考えないと一般の方への周知は難しい。大会と抱き合わせで一般のお客さんと呼べるものがあれば興味を持ってもらえるのではないと思った。

川瀬委員） 大会終了後には、すでに次の開催が決まっており、見直しの期間なく次を迎えていた。ノルマあ

っての参加になり、形骸化している面もあったので、見直しの時期だったなと感じている。大会には2つの目的があったと思う。一つは、たくさんの人が話すことに慣れようということ、二つ目は、業界としての専門性の向上。発表することになってきた次のステップとして、専門性の高いものを発表してもらおうという時期に来ているのかもしれない。例えば、地区予選で選抜されて、神奈川大会で質のいいものを発表してもらおうというもの一つかなと。2年に1回のほうがじっくり研究する機会になるかもしれない。介護フェアでは、山田邦子氏、レギュラーが登壇するなど、興味を引くようなプログラムを設けている。一方で、「介護」というキーワードで会場に行く人がどれだけいるだろうか。

晝間委員) 改めて参集形式での開催を終えて、その場に人が集まる良さをとても感じた。神奈川県全域でないとこれだけの大きな大会は出来ない。実行委員側の刺激、経験になったと思う。大会の意義の一つは、あの大きな会場で発表することかなと。発表者にとって素晴らしい経験である。その一方で会場費と、買われる感が問題かと。職員レベルの参加者をどれだけ増やせるか。一般の方にもという面では、会場のうち一か所を弁護士相談や特養の紹介、申込などの場をつくってもよいかもしれない。

発表をアーカイブ化してはどうか。業務の中で課題にぶつかった時に、参考にしたたり、施設内での勉強会に繋がったりできる。そこを収益化してもよいのではないか。発表を見ることで、ワンランクアップしたものを目指すことにも繋がるのではないだろうか。

地区予選を実施した場合、大会が2つあるといずれかの集客が弱くなり、負荷がかかる。形式を再検討したうえで、パシフィコで継続することも模索できないか。参加者を出すことが難しいのであれば、単価を上げて、密度の濃いプログラムにするようなことも考えた方がよいと思う。

藤田委員) オンラインの良さはあるものの、やはり実地開催は素晴らしかった。持ち回りで、相模原、川崎となると見合う会場がなかなかない。パシフィコ横浜での開催というのは、致し方ないのかなと。物価高騰もある中で、参加費が安い印象もある。8,000円ぐらいにしてもよいのではないか。各ブロックで参加する施設が決まっている。それをなくしていけるように、次回的人数も今年並みだろうということを見込んで進めなければならない。

大久保委員) 見直しの方向性について、皆さんから挙げられたポイントを整理すると、

- ・発表内容の質をあげるにはどうしたらよいか。お祭りから本格的に研究発表大会に移行していくのか。皆さんの意見を聞いていると、アカデミックな香りのするフェスティバルという方向性を目指すのかなと。内容の質をあげるには、トーナメント方式が必要なのか、介護の日を活用するなど。
- ・これまで気になっていたのは、発表内容が検証されていないことである。以前、老人虐待を許すような発表が紛れていたことがあった。そういうものは避けるような仕組みが必要ではないか。
- ・開催場所について、意欲の面も含め、大きなところの良さがある。一方でお金の問題もあり、この点の意見は二分されているような印象である。
- ・参集形式か、オンラインか。どちらかという参集形式での開催の必要性についての意見が聞かれた。
- ・開催時期については、隔年開催もありなのか。

テーマの設置についても気になっている。テーマから、自分が発表するときに関連性を持たせられるかと考えるとこれまではテーマが意味を持っていなかったように思う。テーマが大会を引っ張るようにしないといけない。例えば、2030年の介護の在り方や認知症介護をどうするかであれば、そこに向けて考えるはず。

国際性という面でも、新しい考え方の打ち出しが必要ではないか。留学生などの発表や見に来る機会をつくる。外国の介護に目を向けてもよい。「スウェーデンの介護は～」等。

どう世間に周知するかという点については、PR 会社の導入を考えてもよいのではないか。

アカデミックな大会に向けた取り組み方として、介護系の学会と組んではどうか。連携することで、発表の質についても、見てくれるかもしれない。また、発表をアーカイブ化することで、同じ発表をすることを避けられるだろう。

加藤委員長）研究発表と介護技術発表を大きな柱にしながら、外に向けてのアピールをどうしていくか、またそれらを目的別に分けて取り組んでいくのか。本日の意見を受けて、検討していきたい。

西山会長）隔年でやるのであれば、積み立て形式はとったほうが良いと思う。他、大学・専門学校にこういう大会をやりますとプレゼンの機会をもらったらどうか。

○その他、会費の活用等について

- ・会費徴収の仕方で、積み上げに繋がらないか。
- ・会員であることのメリットを享受できるようにした方がよい。
- ・老施協の会員を増やす（会費収入を増やす）ことは、老施協の事業として見直していかないといけない。大会とはひとつ分けてアイデアとして示していただけるとよい。

4 その他

- ・第 2 回検討会

日時 令和 5 年 12 月 11 日（月）午前 10 時から 12 時

場所 神奈川県社会福祉センター

以上

【見直しの視点】

- ① 県全体での取り組みは必要 ⇒ オール神奈川で取り組んでいくことは変わらず。
- ② 義務的な参加ではなく、「参加したい！」と思える大会に ⇒ 参加対象の職員からの意見も取り入れる。
- ③ 内向きな大会ではなく、一般の人との交流もある大会に ⇒ 一般向け企画・広報の検討
- ④ 基本は対面開催で、場面によってオンラインも視野に ⇒ 基本参加型。有効なオンライン活用について検討
- ⑤ 介護技術発表は、より先駆的な方法を勉強 ⇒ あまり形式にこだわらず自由な表現方法を継承
- ⑥ 研究発表の質を担保していく ⇒ 研究発表内容の検証や継続的研究・考察方法の検討(アーカイブ化含む)
- ⑦ さらなる多様化や関係機関などとの連携も検討 ⇒ 地区予選(トーナメント方式)検討。国際化、学会連携
- ⑧ 隔年での開催や会場持ち回り、財源確保について検討 ⇒ 大会見直しで行うか、老施協で検討するか精査

前回の今後のあり方検討会では、委員一人ひとりからご意見をいただき、別紙のとおり整理をさせていただきました。今後は、前回のスケジュール(案)にある通り、今回(第2回)で開催方法・プログラム方針の検討を行い、各ブロックに持ち帰って意見調整の上、次回(第3回)で決定をしていくというスケジュールを組んでおりましたが、上記の通り、見直しの視点が多岐に渡り、また、各方面との調整や意見徴収なども必要と考えられることから、次回(第3回)までに決めて老人福祉施設協議会総会に諮る事柄と、継続して検討を進めていくことに分けて、2段階方式で進めていくということをご提案するものです。

〈第3回までに決定しておく事項〉

・大会プログラムの多様化についての是非

今年度のプログラムは①研究発表、②介護技術発表、③施設紹介・ミニセミナーという内容でしたが、前回の委員のみなさまからのご意見により、(A)一般向け企画(老人ホーム入所相談ブース、弁護士相談、講演会等)や(B)有効なオンライン活用(SNS活用を含む)などのご意見が出されました。これらについては、今までのプログラムの継続事項とそれに加えて広げるかどうかをまずは決定し、その内容は継続検討とさせていただきたいと考えます。

・検討方法(内容ごとのプロジェクトチームの設置)の是非

上記により方向性が決定した際には、それを詰めていくための検討方法(内容ごとのプロジェクトチームの設置)の是非と範囲までは決定し、人選や運営方法については継続検討とさせていただきたいと考えます。

(考えられるプロジェクトチーム設置の例)

「一般向け企画・広報プロジェクト」、「オンライン(SNS活用)プロジェクト」、「職員等本人企画プロジェクト」

「介護技術発表最先端・再構築プロジェクト」、「研究発表検証・アーカイブ構築プロジェクト」、「学会等外部連携プロジェクト」等

・開催規模、開催頻度、開催場所および財源確保の見通し

プログラムの全体像が見えてくれば、自ずと開催規模のイメージが分かってくることから、上記の是非の状況により見通しを立てることができると考えます。それから、毎年なのか隔年なのか、例年通りパシフィコ横浜開催とするのか会場持ち回りとするのか、またそれが決まれば予算規模もイメージできることから財源確保の見通しも立てることができます。まずは上記の2項目の決定ののち、対応することとしたいと考えます。

全国老施協発第 1868 号
令和 5 年 11 月 吉日

各都道府県・指定都市
老人福祉施設協議会・デイサービスセンター協議会
会 長 殿

公益社団法人全国老人福祉施設協議会
会 長 大 山 知 子

介護報酬改定に向けた要請活動におけるご報告について

平素より本会の活動推進に格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

先般、令和 5 年 10 月 4 日付全国老施協発第 1406 号「介護報酬改定に向けた要請活動について（ご協力をお願い）」においてご依頼をさせていただきました要請活動につきまして、ご尽力いただき誠にありがとうございました。

この度各都道府県・指定都市老施協・デイ協の皆様からのご報告を基に活動報告を取りまとめたチラシを作成いたしましたので別添にて送付いたします。

貴会におかれましては要請活動を行っていただいた方々への報告等にご活用ください。

この度は多大なご協力を賜りましたこと御礼申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

記

送付物

○老施協 JS-Weekly 号外 no.R5-7

- ※ 送付部数につきましては、貴会からご報告いただきました要請活動を行っていたいた国会議員等の人数あたり 3 部と貴会へのご報告用として 10 部の合計部数を送付いたします。
- ※ 本チラシにおける要望書の手交写真および先生方のお名前につきましては印刷の関係上 11 月 9 日時点のものを記載しておりますのでお含みおきください。

〔問い合わせ〕

公益社団法人全国老人福祉施設協議会（担当：松岡、下本、吉沢、安宗）
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 7 階
TEL：03-5211-7700 / Fax：03-5211-7705 / mails：js.jigy@roushikyo.or.jp

介護現場の現状へのご理解を拡げます！

「令和6年度介護報酬改定に向けて」 ご要望を申し上げた国会議員の先生方

R5.10.4 付全国老施協第 1406 号にて依頼した取り組み状況について、事務局等からの報告に基づいて作成 (R5.11.9 時点)

東 国幹	清水 真人	越智 隆雄	田畑 裕明	田野瀬 太道	村上 誠一郎
伊東 良孝	中曽根 弘文	柿沢 未途	岡田 直樹	堀井 巖	山本 順三
鈴木 貴子	中曽根 康隆	木原 誠二	小森 卓郎	石田 真敏	麻生 太郎
高木 宏壽	羽生田 俊	下村 博文	西田 昭二	世耕 弘成	井上 貴博
中村 裕之	福田 達夫	鈴木 隼人	宮本 周司	鶴保 庸介	大家 敏志
鈴木 俊一	福重 隆浩	平 将明	稲田 朋美	二階 俊博	鬼木 誠
秋葉 賢也	大塚 拓	高木 啓	高木 毅	赤澤 亮正	古賀 篤
伊藤 信太郎	黄川田 仁志	辻 清人	滝波 宏文	石破 茂	自見 はなこ
小野寺 五典	小泉 龍司	土田 慎	山崎 正昭	藤井 一博	武田 良太
桜井 充	柴山 昌彦	長島 昭久	大野 泰正	舞立 昇治	鳩山 二郎
庄子 賢一	新藤 義孝	萩生田 光一	棚橋 泰文	高見 康裕	藤丸 敏
土井 亨	関口 昌一	平沢 勝栄	野田 聖子	細田 博之	松山 政司
西村 明宏	田中 良生	松島 みどり	武藤 容治	三浦 靖	宮内 秀樹
和田 政宗	土屋 品子	松本 洋平	渡辺 猛之	逢沢 一郎	今村 雅弘
石井 浩郎	中根 一幸	丸川 珠代	池田 佳隆	阿部 俊子	岩田 和親
金田 勝年	中野 英幸	山田 美樹	神田 憲次	石井 正弘	福岡 資麿
富樫 博之	野中 厚	山本 博司	工藤 彰三	小野田 紀美	古川 康
御法川 信英	古川 俊治	若宮 健嗣	熊田 裕通	加藤 勝信	山下 雄平
遠藤 利明	穂坂 泰	あかま 二郎	酒井 庸行	橋本 岳	加藤 竜祥
上杉 謙太郎	牧原 秀樹	坂井 学	中川 貴元	平沼 正二郎	古賀 友一郎
亀岡 偉民	三ツ林 裕巳	古川 直季	藤川 政人	山下 貴司	金子 恭之
菅家 一郎	村井 英樹	星野 剛士	山本 左近	石橋 林太郎	木原 稔
佐藤 正久	山口 晋	牧島 かれん	石原 正敬	岸田 文雄	坂本 哲志
根本 匠	石井 準一	義家 弘介	川崎 ひでと	小島 敏文	西野 太亮
星 北斗	猪口 邦子	国定 勇人	鈴木 英敬	小林 史明	馬場 成志
森 まさこ	白井 正一	小林 一大	田村 憲久	新谷 正義	松村 祥史
吉野 正芳	英利 アルフィヤ	斎藤 洋明	山本 佐知子	寺田 稔	岩屋 毅
石川 昭政	門山 宏哲	高鳥 修一	吉川 ゆうみ	平口 洋	衛藤 征士郎
梶山 弘志	小林 鷹之	塚田 健一	大岡 敏孝	宮沢 洋一	古庄 玄知
加藤 明良	齋藤 健	細田 健一	上野 賢一郎	江島 潔	白坂 亜紀
国光 あやの	桜田 義孝	永井 学	小寺 裕雄	岸 信千世	長峯 誠
上月 良祐	豊田 俊郎	中谷 真一	こやり 隆史	北村 経夫	古川 禎久
田所 嘉徳	浜田 靖一	堀内 詔子	勝目 康	高村 正大	宮路 拓馬
永岡 桂子	林 幹雄	森屋 宏	田中 英之	杉田 水脈	森山 裕
額賀 福志郎	松野 博一	後藤 茂之	西田 昌司	林 芳正	保岡 宏武
葉梨 康弘	松本 尚	宮下 一郎	本田 太郎	吉田 真次	小里 泰弘
五十嵐 清	森 英介	若林 健太	吉井 章	中西 祐介	今井 絵里子
上野 通子	渡辺 博道	井林 辰憲	石田 昌宏	仁木 博文	金城 泰邦
佐藤 勉	朝日 健太郎	勝俣 孝明	伊藤 孝江	山口 俊一	國場 幸之助
高橋 克法	生稲 晃子	上川 陽子	加田 裕之	いそざき 仁彦	島尻 安伊子
船田 元	石原 宏高	城内 実	末松 信介	大野 敬太郎	西銘 恒三郎
茂木 敏充	伊藤 達也	塩谷 立	関 芳弘	瀬戸 隆一	比嘉 奈津美
築 和生	井上 信治	深澤 陽一	盛山 正仁	平井 卓也	宮崎 政久
井野 俊郎	岡本 三成	細野 豪志	奥野 信亮	三宅 伸吾	
小淵 優子	大西 英男	牧野 たかお	小林 茂樹	井原 巧	
尾身 朝子	小倉 将信	宮澤 博行	佐藤 啓	塩崎 彰久	
笹川 博義	小田原 潔	若林 洋平	高市 早苗	長谷川 淳二	

ご意見・ご要望は
コチラまで



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705
Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp
URL https://www.roushikyo.or.jp

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！

老施協.com



老施協
デジタル



老施協
VISION 2035

老 施 協

JS - Weekly 号 外

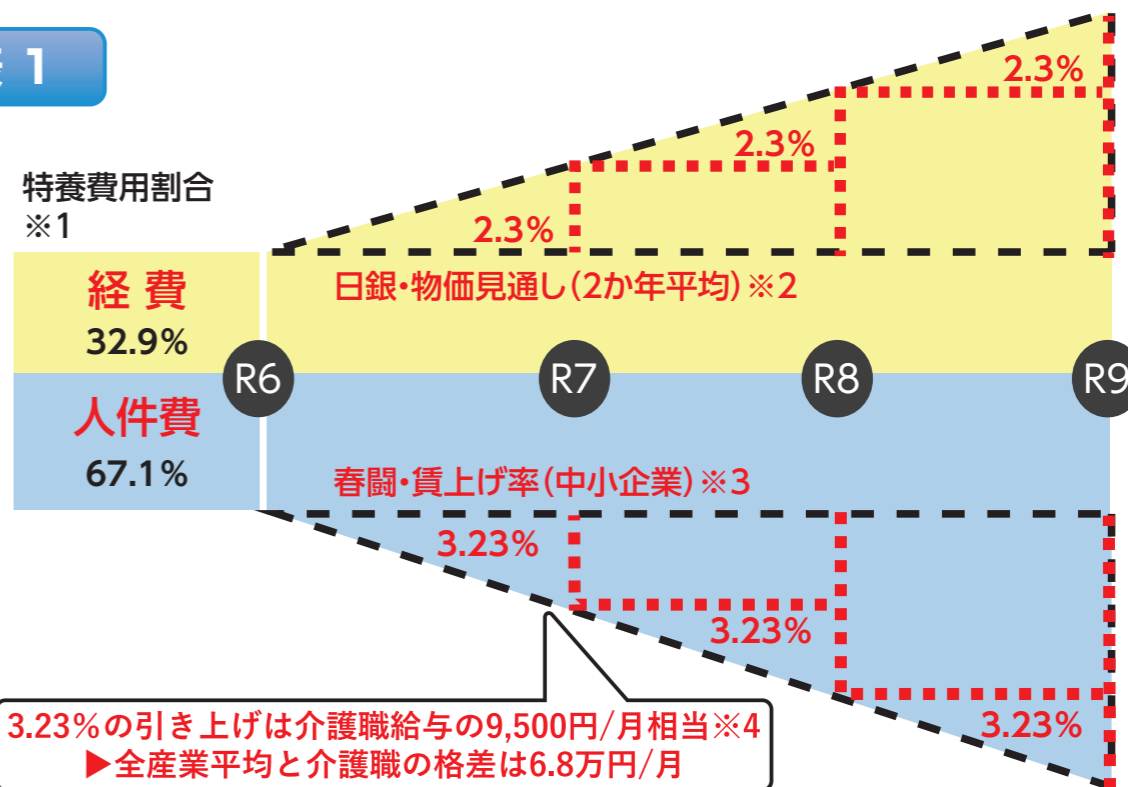
no. R5-7

発行 令和5年11月20日

編集 公益社団法人
全国老人福祉施設
協議会

物価高騰と賃上げに対応するため プラス9%の報酬改定の実現を！

表 1



◇物価相当◇

$$(32.9\% \times 2.3\%) \times 3\text{年} = 2.27\% \dots \textcircled{1}$$

◇賃上げ相当◇

$$(67.1\% \times 3.23\%) \times 3\text{年} = 6.50\% \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} = 8.77\% \div \mathbf{9\%}$$

※1 全国老施協「収支状況等調査」(令和3年度分)

※2 日銀「経済・物価情勢の展望(2023年10月)」消費者物価指数(除く生鮮食品)政策委員見通し中央値の2024年度と2025年度の2か年平均

※3 連合「2023春季生活闘争 第7回(最終)回答集計結果について」組合員数300人未満足昇相当込み賃上げ

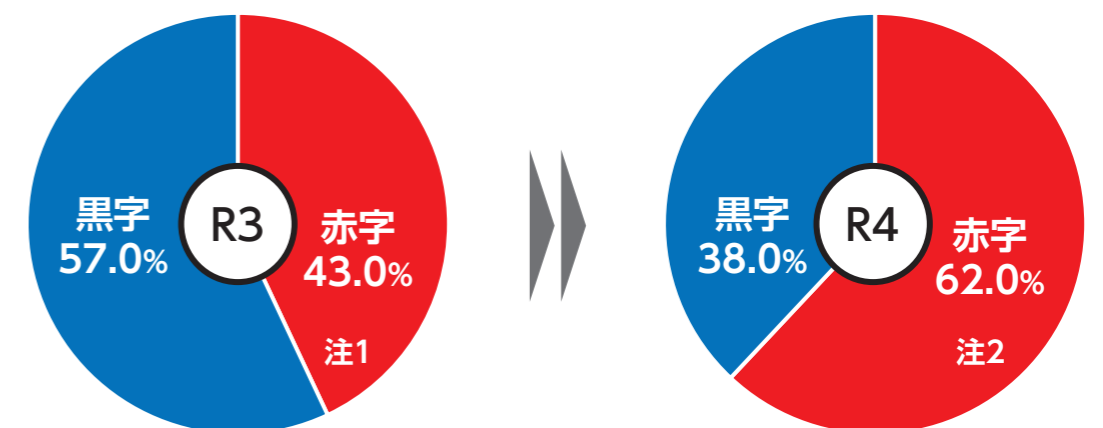
※4 社会保障審議会介護給付費分科会(第223回)・厚生労働省「賃金構造基本統計調査による介護職員の賃金の推移」を基に作成

本資料は全国老施協ホームページからダウンロードできます。
URL : https://x.gd/hseBm





表2 赤字経営の特養が6割強に



注1 補助金含む場合、39.8%

注2 補助金含む場合、51.0%

全国老協令和3年度「介護老人福祉施設等収支状況等調査」

全国老協令和4年度「介護老人福祉施設等収支状況等調査」

高齢の方や障がいのある方へ

資料 7 - 5

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL



めざせ! やさしさ日本代表!
かわさきパラムーブメント

コンサート鑑賞を サポートします



主催：公益財団法人川崎市文化財団／公益社団法人全国公立文化施設協会

協力：株式会社クラウドケア

川崎市文化財団では、高齢や障がいからホールでの音楽鑑賞を楽しみづらくなった方のためにコンサートを鑑賞しやすい環境づくりに試験的に取り組みます。

ミュージザ川崎シンフォニーホール主催公演で介助支援サービスを試験的に導入し、快適に音楽を楽しんでいただける環境を整えます。

ご希望の方に、専門の介助者が見守り・お付き添いをいたします。

クラウドケアの外出・余暇付き添いサービスは高齢者だけでなく障がい者の方でもご利用いただけます。車椅子の方でも対応可能です。ご希望の場合は交通機関も電車からタクシーまで一緒に同乗して、移乗や乗車・下車のお手伝いもヘルパーがさせていただきます。

例えば

- ★介護までは必要ないけど、一人で行くのがちょっと不安。
- ★ご家族や親せきの方が近くにいない。頼りづらい。
- ★同性の方に付き添ってほしい。 etc

実施期間●2023年12月～2024年1月

対象公演●ミュージザ川崎シンフォニーホールで開催の7公演

*対象公演の内容の詳細は裏面をご覧ください

対象人数●1公演あたり5名様まで(先着順)。実施期間中16名に達した時点で終了いたします。

お申込みについて

本事業は介護保険外で行う「コンサート鑑賞時の付き添い、介助」のヘルパー料金の一部を川崎市文化財団が補助することで、皆様に安心してコンサートをご鑑賞いただけるようにサポートするものです。

ヘルパーの派遣は「クラウドケア」から行いますので、クラウドケアへの利用者登録が必要となります。

- 1 クラウドケアにご登録ください**
ウェブサイトから、ご登録をお願いいたします。
<https://www.crowdcare.jp/>



- 2 クラウドケアにサポートをご依頼ください**
- (1) 会員ページの新規ご注文のオーダーメイド依頼でのみ受け付けます。
 - (2) オーダーメイド依頼の【ご依頼内容をご選択ください。】のプルダウンの【その他】をご選択ください。
 - (3) 依頼詳細に①ご依頼日時、②対象のコンサート名、③行き帰りの介助が必要かどうかをお書きください。追って、詳細のご相談をさせていただきます。

- 3 チケットをご購入ください**
担当ヘルパーが決まりましたら、ミュージザ川崎シンフォニーホールの対象公演のチケットをご購入ください。ヘルパーの座席が必要な場合は、ヘルパー分のチケットもご購入ください。
*演奏中のヘルパー付き添いが必要ない場合、ヘルパーはホール内の別室で待機となりますのでチケットは不要です。

【ご注意ください】

- ヘルパーが見つからないこともございます。
- ヘルパー確保のため、できる限り早めにお申し込みください。受付終了はコンサートの7日前です。
- 補助される時間＋一律880円のヘルパー交通費以外の利用料金(通常税込3300円/時間)はご負担いただきます。

介助サービスについてのお問い合わせ

クラウドケア

電話 0120-972-790 (日曜日を除く9時～18時)

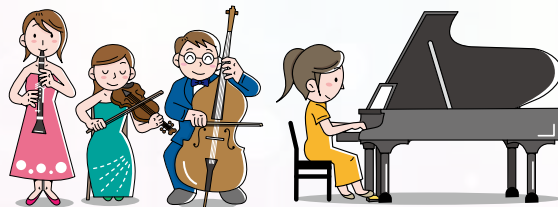
事業についてのお問い合わせ

公益財団法人 川崎市文化財団

電話 044-272-7366 (平日9時～17時)

対象のコンサート

2 時間もしくは 3 時間の介助サービスが無料となります。コンサートの所用時間は特に記載のない限り 2 時間程度となります。途中に休憩があります。



会場・チケットの
お申込み ミューザ川崎シンフォニーホール
044-520-0200 (10 時～18 時)

介助サービスとは別に
お申込みが必要です

詳しくはホームページを
ご覧ください



介助サービス補助対象

♪ 12月2日(土) 11:00 開演 モーツァルト・マチネ第 55 回

* 公演時間約 70 分、途中休憩はありません

出演 指揮&クラリネット：ポール・メイエ、管弦楽：東京交響楽団

〈オール・モーツァルト・プログラム〉

曲 クラリネット協奏曲 K.622、交響曲第 41 番 K.551「ジュピター」 ほか

2時間

♪ 12月3日(日) 15:00 開演 第 14 回音楽大学オーケストラ・フェスティバル

出演 桐朋学園大学(指揮：尾高忠明)、洗足学園音楽大学(指揮：秋山和慶)

曲 ラフマニノフ：交響曲第 2 番(桐朋)、ショスタコービッチ：交響曲第 5 番(洗足)

3時間

♪ 12月9日(土) 14:00 開演 名曲全集第 194 回

出演 指揮：秋山和慶、ソプラノ：三宅理恵、メゾソプラノ：小泉詠子、テノール：福井敬、
バス：妻屋秀和、合唱：東京コーラス、管弦楽：東京交響楽団

曲 ベートーヴェン：交響曲第 9 番二短調 op.125「合唱付き」 ほか

3時間

♪ 12月12日(火) 12:10 開演 MUZAランチタイムコンサート オペラ歌手バリトンが紡ぐ、歌のアラカルト

* 公演時間約 40 分、途中休憩はありません

出演 オペラ歌手 / バリトン：今井俊輔、ピアノ：濱野基行

曲 ヴェルディ：歌劇「仮面舞踏会」より おまえこそ心を汚すもの
山田耕作：この道 ほか

2時間

♪ 12月23日(土) 14:00 開演 MUZAパイプオルガン クリスマス・コンサート 2023 Christmas memories

出演 パイプオルガン：三原麻里、バリトン・朗読・演出：宮本益光、ソプラノ：宮地江奈、
合唱：ゆりがおか児童合唱団、バレエ：坂本麻実

曲 J.S. バッハ：目覚めよと呼ぶ声あり、きよしこの夜、ヴィドール：オルガン交響曲第 5 番より
「トッカータ」、アンドリュウ・ロイド・ウェバー：「キャッツ」より メモリー ほか

3時間

♪ 12月31日(日) 15:00 開演 MUZA ジルベスターコンサート 2023

出演 指揮：秋山和慶、トランペット：児玉隼人、ピアノ：小沢咲希、ヴァイオリン：中野りな
管弦楽：MUZA ジルベスター管弦楽団(東京交響楽団メンバーを中心とした特別編成のオーケストラ)

曲 アルチュニアン：トランペット協奏曲、ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー
シベリウス：ヴァイオリン協奏曲、シベリウス：交響詩「フィンランディア」

3時間

2024 年 ♪ 1月16日(火) 12:10 開演 MUZAランチタイムコンサート パイプオルガン+和太鼓 ～洋と和 魂の饗宴～

* 公演時間約 40 分、途中休憩はありません

出演 パイプオルガン：大木麻理、和太鼓：大多和正樹

曲 J.S. バッハ：トッカータとフーガ 二短調、ラヴェル：ボレロ ほか

2時間